



平成17年度総会ご案内

総会特別講演講師に宮崎秀樹日医副会長を招聘

下記の通り平成17年度総会を開催致しますのでお知らせ致します。なお総会の前に定時都道府県代議員会を開催致しますので併せてお知らせ致します。

個人会員で総会に欠席される方は後日送付の総会議案書に同封の委任状に記入の上、自署押印して必ず返送下さるようお願い致します。

記

日時：平成17年6月26日(日)午後1時～4時30分

場所：東京大丸ビルホール 11F・12F

第1部 総会特別講演 (午後1時～1時45分)

第2部 代議員会ならびに総会(1時45分～3時30分)

1)報告 平成16年度庶務報告及び事業報告

2)議事(承認を求める件)

第1号議案 平成16年度収入・支出決算

第2号議案 平成17年度事業計画(案)

第3号議案 平成17年度収入・支出予算(案) 他

第3部 懇親会(午後3時30分～4時30分)

個人会員として20名以上入会

平成17年度第1回全理事会で報告される

5月22日、東京の日耳鼻医学会事務所で平成17年度第1回全理事会が開催された。茨城、神奈川、愛知、山形各県より個人会員として計21名の入会があったことが報告され、さらに今後とも会員増強に励むこととした。

その他、総会特別講演の講師として宮崎秀樹日医副会長の快諾があった事、参議院議員武見敬三理事との懇談会、九州耳鼻科医学会協議会の報告などがなされ、6月26日開催の総会・代議員会の議案書について協議された。

愛知県耳鼻咽喉科医学会創立50周年を迎える

愛知県耳鼻咽喉科医学会(H.16年会員443名、会長鈴木康之先生)は今年創立50周年を迎える。これを祝して6月18日(土)午後2時半よりホテルグランコート名古屋で記念講演会が開催されることになった。特別講演は藤田保健衛生大学・内藤健晴教授「スギ花粉症は何故増えたか？」特別講演は東京大学・野村恭也名誉教授「タッチ」を予定している。

安全管理指針 全診療所義務づけへ

厚労省検討 医療事故対策を強化

厚労省のワーキンググループは19日、現在は病院や有床診療所だけに義務づけている安全管理指針の策定などの取り組みを、無床診療所や歯科診療所、助産書を含む全ての医療施設と薬局にも義務づけるよう求める報告書をまとめた。将来像として事故に遭った患者が迅速に救済を受けられる補償制度や裁判以外の紛争解決システムの整備にも触れている。06年の医療制度改革に併せて必要な省令改正等を検討する。院内感染対策についてもマニュアル作成や職員研修等の義務化を求めている。

鼻炎の平均患者数は前年比1.6倍

日本医療データセンターがまとめた2005年抗アレルギー薬処方状況などに関するアンケート調査によると、アレルギー性鼻炎の平均患者数は、全診療科で1週間当たり17.3人と全変日1.6倍、耳鼻科だけで見た場合は103.5人、1.2倍だった。

日本気象協会によると、今年花粉飛散量は例年の2倍以上、飛散量が少なかった前年の10～30倍で、観

花粉症は林野行政の失敗

首都圏サミット

首都圏の八都府県市首脳会議(首都圏サミット)が5月18日開かれ、花粉症対策について共同で取り組む方針を検討し、予防治療法推進などの対策強化を国に申し入れることで合意した。花粉症対策への取り組みは石原都知事が提案。花粉症が深刻化した背景を「林野行政の失敗」と指摘、対策の遅れを批判した。

議論した結果、スギの伐採で花粉の発生源を除去する方策や、予防や治療の方法を情報交換し、共同施策を検討することにした。

入院医療体制、診療所も病院並みに

厚生労働省はどんな診療所でも一律で定めている規制を大幅に見直す。いまは手術室などがなく医師が1人でも入院患者の受け入れは可能だが、複数の医師や看護職員の配置など病院並みの体制を義務付ける。2006年度の医療制度改革に法改正を盛り込む方向。

利用者にとっては病院並みの質の高い入院サービスを受けられる診療所が増える。一方、設備や人材面で医療の質や安全度が低い診療所の入院サービスは消える。

同時に医療保険が払う診療報酬も見直し、いまは病院より低く設定する診療所の入院サービスに対する報酬を引き上げる方針。病院並みの診療報酬を認めることで、診療所に高い質と安全度の維持を促す。

ことしは流行性耳下腺炎のピーク年

国立感染症研究所は今年が耳下腺炎のピーク年にあたるとして、注意を促している。これまでの週別定点当たり報告数は過去2年間の同時期に比較して多く、感染研は新学期を迎えた今後、それに流行が拡大する可能性が十分にあると分析している。1995年から2004年の同症の年別累積定点報告数をみると、97年と01年が流行のピークで、現在中止されている定期予防接種の実施以前と同じ傾向で4年ごとに流行している。

経営主体別診療科別診療諸率 04年12月分

【医科入院外 抜粋】

	1件当点数	1件当日数	1日当点数
総合計	1,032	1.7	606
診療所計	916	1.8	520
内科診療所	1,026	1.7	617
小児科診療所	893	1.9	478
眼科診療所	671	1.2	557
耳鼻科診療所	771	2.2	357
耳鼻科本人	726	1.8	395
耳鼻科家族3才以上	731	2.1	343
耳鼻科家族3才未満	1,067	3.1	347
老人保健8割	905	2.8	324
老人保健9割	916	2.7	337

今号より、内科・小児科・眼科を追加し、耳鼻科を一部削除致しました。

= 耳鼻科医学会機関誌提供のお願い =

何らかの形で機関誌を多くの医会が作っておられると思います。日耳鼻医学会(事務局宛)へも是非お送り下さるようご配慮下さい。

.....
測史上でも1.2位になるという。これを反映し今回のアンケート調査でも平均患者数が前年に比べ増加していた。